

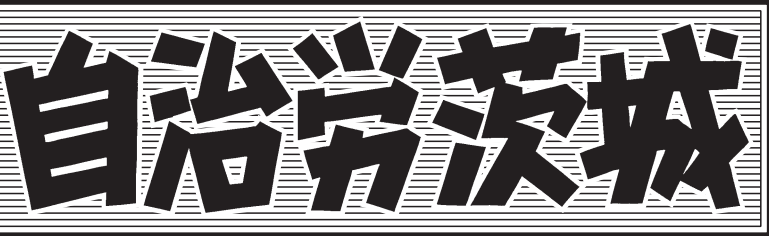
第36期前期・青年女性労働学校

日時 7月6日(土) 10:00~15:30

会場 自治労会館

・講演『はたらくものの力で政治を変えよう!』
講師: 松上 隆明(「月刊労働組合」編集長)

・分科会



水戸市桜川 2-3-30 自治労茨城県本部

Eメールアドレス kenhonbu@j-ibaraki.jp

編集発行人 = 千 歳 益 彦

毎月 5 の日発行

定価 = 1部5円(組合費を含む)

印刷所 = コトブキ印刷株式会社

■経歴	
生年月日	1985年12月21日 (33歳)
出身	茨城県鉾田市
経歴等	経済産業省職員、ボ ストン・コンサル ティング・グループ 勤務
学歴等	鉾田市立上島小、私 立清真学園中、私立 清真学園高校では ラグビー部、早稲田 大学政治経済学部 卒業。早稲田大学 では雄弁会幹事長。 タフツ大学フレッ チャー法律外交大 学院国際ビジネス 学修了。
事務所	水戸市千波町2067- 5



参議院茨城選挙区
おぬま たくみ

参議院選挙

選挙区

比例区

おぬま たくみ

小沼巧さんの推薦を決定

岸まきこ両候補の支援を広げよう

県本部は6月14日、第10回執行委員会で参議院議員選挙茨城選挙区について立憲民主党から立候補する「おぬまたくみ」さんを推薦決定しました。

茨城選挙区の対応については、連合茨城が、2月21日に開催した第15回執行委員会において、藤田幸久氏の推薦取り消しを確認して以降、国民・立憲・社民党各県連、連合茨城との検討・協議を進め、4者合意の下、統一候補の選定にまで至りましたが、立憲民主党本部の対応により不調に終わりました。

こうしたことから茨城県本部は3月14日に開いた第115回臨時大会で参議院議員選挙茨城選挙区について、「今後の連合茨城と協力的政党間(立憲民主・国民民主・社民)の候補者調整の状況をふまえて対応を決定していきます」としてきたところ。

6月に入り立憲民主党は、選挙区の候補者として新人で元経済産業省職員の「おぬまたくみ」さんを擁立することを決定し、連合茨城に対して支援の要請がありました。

連合茨城は、立憲民主党の「おぬまたくみ」さんを「支持する」として、茨城県連との間で、野党の連携が引き続き必要なこと、「連合茨城の政策に理解を示していること」などから、各種政策別本部方針をふまえ、各産別の判断によることとしました。

以上のような連合茨城の経過をふまえ、県本部としては、全国比例区との連携を考慮し、茨城選挙区は立憲民主党の「おぬまたくみ」さんを推薦し、支援することとしました。

改善しない賃金や労働条件に加え、年金問題、憲法改正など国民の生活を犠牲にする政治に歯止めをかけるためにも、茨城選挙区は「おぬまたくみ」、比例区は「岸まきこ」への支援の輪を広げていきたいと思います。

小沼 巧の決意 弱い小沼(33歳)が負けられない理由。

私は、幼少期、身体が小さく意気地なしでした。人と話すのが恐くて、そのくせ「バカにされたくない」とその思いが強く劣等感の塊でした。そんな私を見兼ねてか、祖母は私を厳しく育ててくれました。その甲斐あって、中学、高校生時代にはラグビー部に、大学では雄弁会に所属し、すこしベタではありますが、自分としては満足できる学生生活を送ることができました。

けれども社会人になった時、私は再び「卑小な」自分に会いました。

経産省、BCGにおいて私の自信は木っ端みじんに砕かれ、夜も眠れない、出勤もままならない時期を経験しました。救ってくれたのは同僚の「俺も同じだから、分かるよ」という言葉でした。

このように私は弱い人間です。今の社会、偏見や差別、暴力といったものは弱いところに集中します。社会の歪みが弱い立場にある人を生きづらくします。その歪みに身を置いてきた私は、この度、この歪みを正したいと決意しました。同僚の言葉がきっかけです。

弱いものが負けるしかない時代は終わり、お互いの違いを認め合い、多様性を尊重する社会がすぐそこまで来ています(と信じて)。「独りにしない社会。繋がりのある社会の実現」。そのことを、我が身をもって示すため、弱い小沼は負けられないのです。



茨城からの関東甲夏期交流集会参加者

「私たちと政治のつながり」について基調講演があり、組合経験が少なく参加者にも分かりやすい内容で、「政治に無関心でも、無関係ではない」という言葉が印象的でした。夜の文化交流

三日目は、閉会集会があり、職種別分散会報告と記念講演があり、全体集約では、集会で学んだことを職場・単組で実践することを参加者全員で確認しました。

山中湖で学習・交流

第24回関東甲夏期交へ59人

第24回関東甲地連青年女性夏期交流集会が6月14日から16日の三日間、山梨県山中湖村で開かれ、茨城からは13単組59人が参加しました。

続いて、青年選挙対策委員の高木陽介さんより「似たような悩みを持つ人と交流でき、自分の職場環境を見直すことができた」などの感想が出されました。夜は、県内参加者の交流会でビンゴゲームなどを楽しみました。

翌日は、集会メインの職種別反合理化分散会。参加者からは、「どこの自治体でも人員不足は共通」、「人事評価がうまく機能していない」、「似たような悩みを持つ」と交流でき、自分の職場環境を見直すことができた。夜は、県内参加者の交流会でビンゴゲームなどを楽しみました。

県内の女性集まろう！

～第59回はたらく女性の茨城県集会～

日時 7月27日(土) 9:30～

場所 自治労会館(水戸市桜川2-3-30)

・講演「今、はたらく女性の健康と安全が危ない」
講師: 山田 厚・全国労働安全衛生研究会代表

・分散会(軽食をいただきながら)



Q 幼児教育・保育無償化法が成立したね。
A 今年10月から、この新制度がスタートする。



幼保無償化

る。3〜5歳の子どもが認可保育園や幼稚園を利用する場合の費用が無料になるんだ。認定保育園

待機児童対策は置き去り

も対象だよ。認可外子ども園の場合は、利用料の一部が補助されることに決まった。

Q 日本は子どもに関する公的支出が諸外国に比べ低いといわれているから、前進だね。

A そうともいえないよ。たしかに住民税非課税世帯の場合は、0〜2歳児も無償化の対象になる。しかし、非課税世帯は今まで保育料が補助

されるなどの措置が取られてきた。それに無償化対象施設も、給食費などはこれまで通り自己負担なので、効果は限定的だ。

Q 待機児童は減らないの？

A 待機児童が多いのは今回無償化の対象外となった2歳児以下（非課税世帯を除く）。まずはこの年齢の受け皿を確保することが必要だ。新設



保育集会であいさつする今橋社福評議長

県本部社会福祉評議会は6月15日、自治労会館で保育集会を開き、待機児童問題など保育をめぐる状況や職場環境の改善に向け学習・交流を深めた。

県本部社福評・保育集会

良い保育は働きやすい職場から

主権者を代表して今橋社福評議長は、「保育所は劣悪な職場環境が多

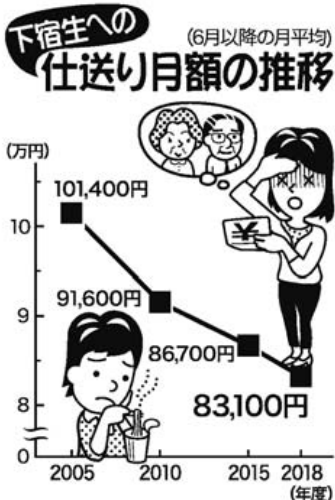
く、自分の子どもを保育士にしたいと思う集会所加者は少ない。働きやすい職場を作ることが重要」と強調しました。

次に、千歳委員長が、「今年度が会計年度任用職員制度への移行時期。待遇改善に向け組織化は重要であり、県内4単組

に続き組織化を進めよう」と述べるとともに、「参院選・岸まきこ」への支援を訴えました。このあと今橋議長が、「持ち帰り残業の解消や休憩時間の確保、会計年度任用職員制度に向け臨時・非常勤職員の待遇改善と組織化をめざそう」

などの集会基調を提起しました。続いて、「幼児教育・保育をめぐる現状と課題」をテーマに前原朝子自治労本部社会福祉評議会保育部会長が講演しました。前原さんは、配置基準の改善や退職補充、保育所職場の36協定締結

の必要性などを強調しました。午後からは、「よりよい職場づくり」各職場での取り組みから学ぶ」と「こどもに伝えたいお話と絵本（講師・すばなしの会みずく佐藤慶子さん）」の二つの分科会で学習・討論しました。



東京地区私立大学教職員組合連合の調査

私大学生仕送り月額

過去30年で最低

昨年度首都圏の私立大学の新入生の仕送り額は8万3千円。東京地区私立大学教職員組合連合（東京私大教連）が毎年首都圏の私立大学の新生の保護者を対象に行っている調査で、こんな結果が出ました。集計を開始した1986年以降最低の数字です。過去最高は1994年の12万4千900円。ここから年々下がりはじめ、何とか10万円を維持できたのも2005年まで。それ以降は下降に歯止めがかかりません。日本の高等教育への財政支出は先進国中最

低レベルといわれます。政府は今年度で高等教育無償化法案を成立させる考えですが、対象が低所得層に限られ、「無償化は名称詐欺で、実態は『給付型奨学金などの拡充』に過ぎない」といった指摘が挙がっています。

知ってほしい、組合用語！

ハラスメント

ハラスメントとは、人格と尊厳を侵害し、職務を遂行する上で一定の不利益を与え、また、就業環境を悪化させることをいう。相手方の意に反する性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、非倫理的な言動によるモラル・ハラスメント、権力や地位などを背景にした不当な言動によるパワー・ハラスメントなどをさす。

ロードサービスを拡充！！2019年1月1日より一斉適用！

～故障などのトラブル解決に心強い味方～



1 マイカー共済すべての契約にサービスを拡大

四輪自動車・二輪自動車・原付自転車
すべてにロードサービス対応可能

2 自走不能な場合のレッカーけん引または積載車による搬送距離を拡大

3 脱輪・落輪等引き上げサービスを拡大

けん引搬送距離	
現場から契約者の指定先まで	100kmまで無料 (改定前は30km)
現場から最寄りの全労済指定整備工場まで	無制限

※燃料切れ時のガソリンお届けサービスは引き続き10ℓまで無料です(1共済期間中1回のみ)。

引き上げサービス	
クレーン等を伴う特殊作業	無料(改定前は有料)
側溝や道路外への脱輪・落輪引き上げ等	無料

※雪道・ぬかるみ・砂浜などでスリップ・スタック状況からの引き上げ作業など、一部有料の場合もあります。

対象となる自動車

マイカー共済すべての契約(共済契約証書に記載の「被共済自動車」)がサービスの対象となります。
※被共済自動車には、マイバイク特約や他車運転危険除補償の対象となる他の自動車は含まれません。

もしものときは

☎0120-889-376
24時間受け付けています。携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

※ご利用は上記フリーダイヤルに事前にご連絡いただき、全労済が認めた場合に限りです。現場の住所の確認ができる場合はあわせてご連絡ください。

※ご自身で手配された業者の費用精算はいたしません。

※IP電話等、上記フリーダイヤルをご利用いただけない場合は、下記までご連絡をお願いします。03-6628-4590(有料)

ZENROSAI NEWS
5118A096

じちろう
マイカー共済
自動車総合補償共済

全労済 全国労働者共済生活協同組合連合会
自治労共済本部
全日本自治体労働者共済生活協同組合

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいで組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

ご不明な点があれば、まずは所属の組合にご連絡ください。